

どうする 松本4



令和7年7月1日現在	
世帯数	: 847世帯
人口	: 1445人
男	: 679人
女	: 766人

令和5年春の松本パルコの閉店発表以来、昭和期まで遡りながら中心市街地と大型商業施設の変遷・興亡を定点観測してきたこの連載も4回目となり、とうとう松本パルコも井上本店も閉店してしまっ

た。この間、1月に閉店したヨーカドー南松本店はほどなく建物の取り壊しが発表され、すでに解体工事中。一方その隣接地には業務用食品スーパーの新店舗が完成し、7月下旬にはオープン予定だという。

一方街なかでは、井上サテライトプラスこそ旧本店向か

いにオープンしたものの、旧パルコビルは看板も外されての大型空き店舗のままで、隣接する雑居ビルにも多くの飲食店が入居していたが、気が付けばこちらでも閉鎖され、向かいのアイパーク伊勢町のテナントスペースにも空室が目立つようになった。

旧松本パルコの建物は新たな事業者の所有となったが、報道によれば当初予定していた年内の開業は来春に延期となったらしい。信州ジャスコ(旧はやしや)閉店から松本パルコの開業までは3年の期間を要したことを思うと、早期の開業は難しいのかもしれないし、見切り発車的にござなりな状態での開業は当事者も消費者も望むところではない。

行政や市民でも市街地の在り方を考える機運は高まっており、「広報まつもと」6月号の巻頭特集「どうなる? 松本の中心市街地」では、7月12日に開催の「中心市街地の再設計」をテーマとした市民

と市長が語り合う多事争論会が告知された。また6月29日には、松本都市デザイン学習会主催の「松本中心市街地のビジョン 絵に描いた餅を描き続ける」が1月に続いて開催された。ただ、中心市街地の再開発を牽引するキープレーヤーとして期待される松本商工会議所で、会頭・副会頭の2名が欠員のままであるのは、松本山雅FCで安藤翼と馬渡和彰が故障しているのと同じくらいに心もとない。

今となつてはその経緯を覚えている方も少なくなつたが、松本駅からパルコに続く道を公園通りと呼ぶようになった時にはまだ花時計公園(松本市中央西公園)はなく、パルコに公園は付き物だからと、パルコ増床後に公園通り沿いに作られたのがこの公園であつた。それ以来パルコの集客との相乗効果を期待して、中心市街地を代表する屋外イベントの会場として、多くの催しが定期的に開催されている。

今年も6月20日からは花時計公園で9回目となる信州ワインサミットが開催された。長野県内約60か所のワイナリーからおおよそ140銘柄のワインと市内の飲食店を中心

とした15のブースの料理が提供され、会場内の700席は地元ワインを楽しむ市民や観光客で埋め尽くされる時間帯もあった。8月21日からはビールの祭典「松本サマーフェスト」が、9月27日には第3回まつもと街なか大道芸&ジャズフェスティバルのメイン会場としての利用が予定されている。

屋外は猛暑や台風などの天候に左右されるリスクも大きいから、現在空き店舗中の旧パルコの利用や開業後も公園イベントとリンクした活用が可能であれば望ましいが現実的には無理筋か。ただ物品販売中心の施設での集客は難しいであろうから、イベントなどのコト消費(体験型)や滞在・滞留型の要素を含んだ施設としての活用となるのだから、いずれにせよこの連載が今後続いていくことを祈るばかりである。(この記事は6月末時点での情報に基づいております。)

Presented by
視聴覚
委員会

まちかどフォト



～牛つなぎ石
から望む～

地域力に期待！ 「まつチャレ」に選択肢を

中学校の「部活動」を、地域移行という形で徐々になくしていこうという流れを、みなさんはご存じでしょうか？

松本市でも、昨年から段階的に中学校の部活動を、学校から地域へ移行する試み、「まつ」と子どもチャレンジクラブ（通称まつチャレ）が始動しています。本年度は休日の部活動を終了し、令和8年生が800人減っているとのこと。第二に、教員の負担が大きいことが挙げられます。そもそも、教員の担い手が不足している中、働き方改革で土日祝日や放課後の指導ができません。実際に、土日の部活動がなくなりありがたいという声は、松本の教職員に限ったものではないようです。



筆者は、学生時代、部活動という居場所に救われた経験が多々あります。小・中を通じて文化系部員だった筆者は、派手な大会等への出場こそありませんで

したが、その場所を大変気に入っていました。互いに意見を交わし、同じ目標に向かう時間は、傷ついたり励ましあったりしながら他者を受け入れる、多様な意義を持つていたと思います。また、共働き世帯や、放課後時間を持て余す子ども達の受け皿として、居場所の役目を果たしてもいたでしょう。

「まつチャレ」には現在、50を超える団体が、地域移行の担い手として認定・登録されています。その大半は、市内で活動するスポーツクラブなどです。松本市街地をはじめ、波田地区や山形村など、少しずつエリアの拡大も進んでいる状況で、メジャーなスポーツ以外にも、ウエイトリフティングやボクシング、スポーツクライミングといった運動系クラブ、子ども麻雀や



頭脳スポーツ、和太鼓といったジャンルも見られます。一方で、文化系の活動は、まだまだ受け皿が足りていません。その割合は、登録団体全体の1割程度にとどまっています。豊かな自然と歴史文化遺産に恵まれた文化都市松本としては、なんとも残念な現状です。

このまちには、多くの文化活動経験者や、「セカンドライフを豊かに」と集まるシニア層団体がたくさん眠っているはず。そうした知識や経験を、子ども達の放課後時間に活かすことはできないものでしょうか。地域の人材や身近な施設の活用は、高額な費用負担や送迎問題という、先送りされた課題の解決策の一つとなり得るように思うのです。

あなたの経験を活かして、未来を担う子どもたちの放課後時間を、より文化的で豊かな居場所にしませんか？



「まつチャレ」
サポートデスクの
HPはこちら

電車通り

日本の人口の変遷ですが、明治時代から150年で現在約3倍の1億2千450万人になっています。しかし、最高の時の人口は平成20年の約1億2千808万人で、以後毎年減少しています。少子高齢化や出生率の減少のためです。人口が減少しますと労働力ならびに消費者の不足が発生し、国内経済の縮小が懸念されます。多くの人が主體的に生き方を選択するなど、ライフスタイルの多様化により男女とも結婚や妊娠を望まない人達が増えたことが人口減少につながっています。働き手が減少すればその分各自自治体の税収も悪化し、行政サービスの質が低下します。人口問題の対策ですが、65歳以上の高齢者の就業率を今迄以上に上昇させる。そして子育て施策の推進・起業家への応援・婚活支援・若者の定住支援など、これらの課題に対処するためには、ITやAI技術の導入による業務効率化や労働環境の改善が不可欠です。政府や企業、地域社会が一丸となって、これらの課題に取り組むことでより良い未来を実現したいものです。